

かいほ ジャーナル

Japan Coast Guard Journal

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD



国境を越えた学びが、海の安全をつなぐ

特集 絆が育む国際協力
海上保安政策プログラム
-MSP-10周年





海上保安政策プログラム

MSP - Maritime Safety and Security Policy

10周年

Program



MSP
10th
Anniversary

特集 MSP 10周年

海上保安政策プログラム

絆が育む国際協力の力

国境を越えた学びが、海の安全をつなぐ

海の安全と平和を守るために、国境を越えて学び合う。その理念のもとに歩み続けてきた海上保安政策プログラム（MSP）は、今年で10周年を迎え、2025年8月26日 東京都港区六本木の政策研究大学院大学（GRIPS）にてMSP 10周年の記念セミナーが開催されました。

会場には、各国からMSP修了生が集まりました。政策研究大学院大学学長 大田弘子氏、JICA 理事長 田中明彦氏、海上保安大学校長 筒井直樹氏の挨拶と共に、MSP 10年の軌跡と修了生の活躍と連携事例をお話いただきました。

また、UNODC^{※1} グローバル海上犯罪対策プログラム プログラム・コーディネーター デイビッド・オコネル氏による特別講義、「インド太平洋地域で多様化する海上犯罪に対応するためのUNODC GMCP^{※2} プログラムと国際協力」の講演も開催されました。

記念の節目として行われた今回のセミナーには、国内外の関係者に加え、各国に戻り第一線で活躍するMSP修了生も参加。各国の修了生や関係者が集い、これまでの歩みを振り返るとともに、未来への新たな展望を共有しました。

国や文化を超えて築かれた絆が息づき、海洋安全保障の分野における国際協力の重要性を改めて確認する機会となりました。

セミナー後にはMSP生徒達が学んだ思い出の地、六本木にて10周年記念レセプションが行われ、国や文化の違いを越えた参加者たちが再会を喜び、各国の情報交換も盛んに行われました。

10周年を記念した一連の行事の一環として、参加者は横浜海上防災基地にて巡視船「いず」及び特殊救難隊の訓練を視察しました。

基地や船内の設備や運用の説明があるたびに参加者から質問があがり、説明のひとつひとつに熱心に耳を傾け、時折うなずきながらノートを取る姿がありました。

この10年の積み重ねは、単なる研修の枠を越え、国際社会の共通課題に挑む力へと育てられています。

※1 UNODC: United Nations Office on Drugs and Crime (国連薬物犯罪事務所)
薬物、犯罪、国際テロの問題に対処することを目的に、平成9年に設立された国連の機関。
※2 GMCP: Global Maritime Crime Programme (グローバル海上犯罪プログラム)

取材 / 文 ヒューマンイノベーション 塚野香織



写真提供: JICA

海上で発生しうる様々な課題に対して、適時・的確に対処でき

海上保安政策の立案・実践を行う人材を育てる

それが、**海上保安政策プログラム（MSP）**です。

海上保安政策プログラム（MSP：Maritime Safety and Security Policy Program）は、海上保安大学校（広島県呉市）、政策研究大学院大学（東京都港区）、国際協力機構（JICA）、日本財団が連携・協働して実施する1年間の修士課程です。

本プログラムには、日本の海上保安官をはじめ、アジア諸国などの海上保安機関職員が参加し、国際法や安全保障、事例研究を通じて「法の支配」の重要性を学びます。教育は実務に直結する内容に加え、分析力や政策提言力、国際的なコミュニケーション能力を養うことを重視しています。

2015年の開講以来、多くの修了生が自国に戻り、海上保安分野で国際ネットワークの要となって活躍しています。現在^{※3}は第10期生が参加し、バングラデシュ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、モルディブ、パラオ、フィリピン、スリランカ、インド、日本から集まったメンバーが、知識の習得と連携協力・認識共有の強化に向けて研鑽を続けています。

※3 2025年9月取材時

MSPの概要

プログラムの特徴	目指す人材像	学びの構造
政策研究大学院大学（GRIPS）と海上保安大学校（広島）による連携で、世界で唯一の海上保安領域の修士課程。	国際法や安全保障論を学びつつ、救難・警察政策などの実務演習を通して、実践的な政策対応力および国際コミュニケーション能力を備えた人材を養成。	東京で理論研修（国際関係、国際法など）、広島で実務研修（演習・スタディツアー・リサーチペーパー作成など）を完結する1年プログラム。

1 国際的な広がり

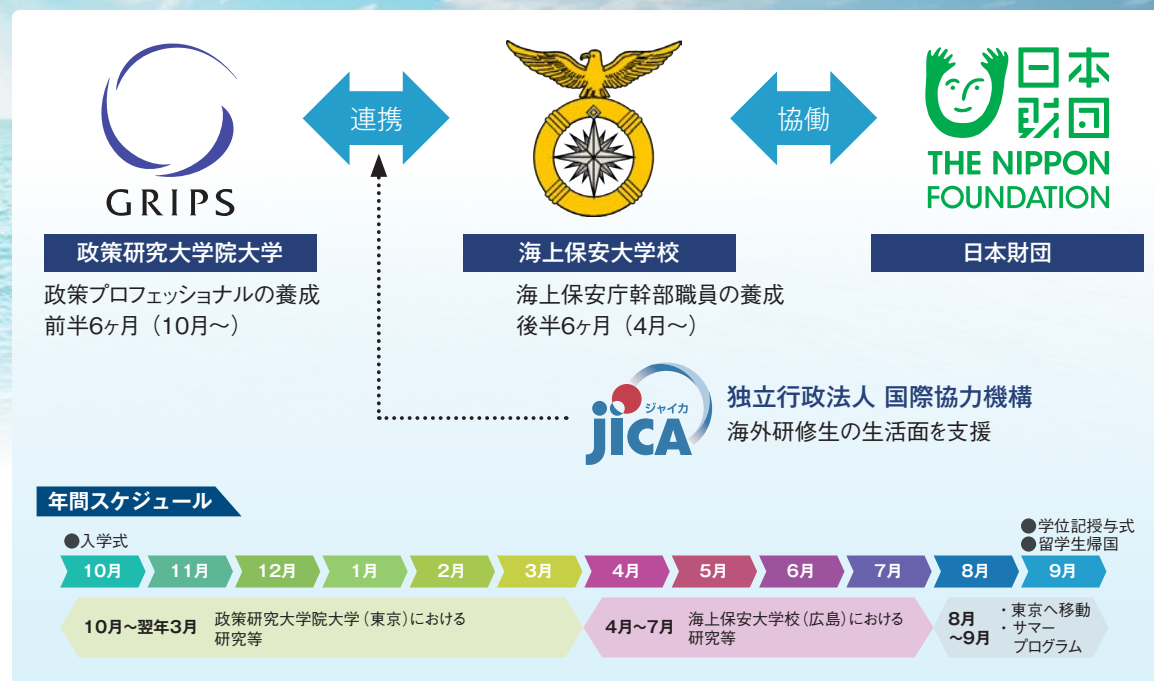
アジア諸国などから海上保安機関職員が参加し、国際ネットワークと連携力を築く場となっています

国別参加実績

	バングラデシュ	インド	インドネシア	日本	マレーシア	モルディブ	パラオ	フィリピン	スリランカ	タイ	ベトナム	合計
2024 10期生	1	1	1	2	1	1	1	1	1			9
1～10期合計	4	4	7	18	11	2	1	13	13	2	3	78

2 成果と社会的意義

修了生は帰国後、自国の海上保安制度に変革をもたらす“旗振り役”として期待され、国際的議論の場でもその存在感を高めています



自由で開かれたインド太平洋の実現に向けて

法の支配に基づく自由で開かれたインド太平洋の実現に向けて～第73回国連総会における安倍総理大臣一般討論演説（抄）～

太平洋とインド洋、「2つの海の交わり」に、ASEAN諸国があります。（略）私が「自由で開かれたインド太平洋戦略」を言いますのは、まさしくこれらの国々、（略）、インドなど、思いを共有するすべての国、人々とともに、開かれた、海の恵みを守りたいからです。

洋々たる空間を支配するのは、制度に裏打ちされた法とルールの支配でなくてはなりません。そう、固く信じるがゆえにであります。

先日、マレーシア、フィリピン、スリランカから日本にきた留学生たちが、学位を得て誇らしげに帰国してきました。学位とは、日本でしか取れない修士号です。

海上保安政策の修士号。目指して学ぶのは、日本の海上保安庁が送り出す学生に加え、アジア各国の海上保安当局の幹部諸君で、先日卒業したのはその第3期生でした。

海洋秩序とは、力ではなく法とルールの支配である。そんな不変の真理を学び、人生の指針とするクラスが、毎年日本から海に巣立ちます。実に頼もしい。自由でオープンなインド・太平洋の守り手の育成こそは、日本の崇高な使命なのです。



（海上保安レポート 2025 より）



MSPが育む人材と国際協力の未来

MSPの一番の特徴は、日本人と海外の参加者が寝食を共にしながら学ぶことにあります。教室での講義や演習だけではなく、寮生活を共にし、朝食から夜の勉強時間まで同じ時間を過ごす。そうした濃密な1年間が、強い絆と人的ネットワークを築き上げています。単なる留学制度とは違い、互いを深く理解し合う特別な環境だと思えます。

このプログラムは、アジア諸国などの海上保安機関の職員が相互理解を深め、組織の特徴や直面している課題を共有しながら学ぶ場です。開始当初は東南アジア諸国から、今では南アジアや太平洋エリアにも広がっています。将来を担う人材を各国から迎え、国際的な協力の基盤を築くことを目的としています。

私自身、このプログラムの意義を強く感じるのは、ここで育った人材が将来的に各国の幹部となり、国際会議の場で再会する可能性があることです。10年を経た今、卒業生が現場や国際会議で活躍している姿を数多く見してきました。同じ経験を持つ卒業生が、国際舞台で要職を担い、共通の価値観を基に協力し合う未来が現実になりつつあります。

これからの課題は、参加国・人数の拡大・増員や教育支援体制の充実です。まずは、この素晴らしいプログラムを通じて、世界中の海上保安機関の方々との関係を深化させ、「海洋における法の支配」といった普遍的価値観を共有したいと思います。そして、本プログラムはリサーチペーパーの執筆を重要視しておりますが、この指導には一人一人と深く向き合う必要がありますし、調査研究を進めていくための環境整備は非常に重要であると感じております。そのためには、担当教官の増員などの教育体制強化が必要不可欠であると感じています。

さらに、このプログラムに対する国内外からの期待は非常に大きいことは間違いなく、将来の発展に大きな可能性を感じていますし、さらに発展させていきたいと決意を新たにしています。

MSPは、自由で安全な海を守るためのリーダーを育成する重要な取り組みです。この先の10年も、さらに多くの人材を輩出し、国際協力の礎となることを願っています。

教育訓練管理官は、海上保安庁における人材育成を統括する重要な役職です。職員の教養や訓練の企画・運営から、学生採用試験の実施、海上保安大学校・海上保安学校での教育・訓練まで幅広く担っています。さらに、国際協力の分野においても教育・訓練を総括し、国内外をつなぐ人材育成の要となっています。

10期生 インタビュー

——MSP での学びと仲間との絆

志比：広島での生活は、本当に穏やかで落ち着いていました。自転車に乗ったり、仲間と自炊をしたりしました。休日には皆で宮島に行ったのですが、日本人の同期が企画してくれて、世界中から集まった仲間と一緒に鳥居を眺めた時間は、忘れられない思い出です。

ユニカ：私にとって MSP は、ただ学ぶだけの場ではありませんでした。国際法や安全保障の知識に加えて、異なる立場の人と誠実に議論し、共通点を見いだしていくその大切さを実感しました。

志比：私は特に国際関係と国際協力について学べたことが大きかったです。国と国とのつながりは理論だけではなく、人と人の信頼で支えられていることを、日々のディスカッションや共同生活を通じて学びました。

ユニカ：政策を語るとき、事実と論理に裏付けられた誠実な議論が必要だと学びました。外交の現場でも、その姿勢が欠かせません。

MSP では、国際法や安全保障、海上保安の知識を体系的に学ぶことができました。多国籍の仲間とともに過ごす中で、互いの文化や考え方を理解する大切さを感じました。

日本での生活は学びの連続であり、これまでにない視野を得ることができたと思います。

ここで学んだことを、将来自国の海上保安行政に生かしていきたいです。

志比：私も同じです。MSP での学びを現場でどう生かすかが常に問われています。例えば薬物取引や密輸といった問題にどう立ち向かうか。日本で得た知識や視点を、母国の取り組みに応用できるのは大きな財産です。

ユニカ：これからも、海が平和で安全な場所であり続けるよう、MSP で得た仲間との絆と学びを、未来につなげていきたいです。

志比：国境を越えて協力できる関係を築けたことが、私たちの最大の成果だと思います。



インドネシア海上保安機構
ユニカ リアナ
Yunica Rianaさん



海上保安庁
しひ たくま
志比 琢磨さん



修了生 インタビュー

国境を越えて活躍する修了生たち。その背後には、JICAの支援と日本の学びへの感謝が確かに息づいています。

「誠実さと事実に基づく議論を学んで」

かつてマレーシア航空の客室乗務員として何度も日本を訪れた経験を持ちますが、MSP は特別な学びの時でした。

政策を学ぶ際には、常に誠実であること、そして主張には事実と論理を裏付ける必要があり、MSP はその姿勢を徹底的に教えてくれました。結果として『外交こそ最良の政策』だと確信できました。

MSP 修了後は政策立案の場で発言を求められる機会も増え、国際会議でも発言が増えた実感しています。さらにマレーシア若手職員の、研究や政策文書の評価・意見提供を行い、組織の発展に貢献しています。

MSP は異なる立場の人々が集い、違いを明らかにしながら共通点を見出していく場です。海が法律に基づき、平和で安定したものであるように、これからもぜひ続いてほしいプログラムです。



マレーシア海上法令執行庁 (MMEA) Mohd Nashrul Bin Nashahar
モハド・ナシュル・ビン・ナジャハル MSP 5期生 / 2020年修了

「学びを現場で生かし、国際海洋秩序を守る」

日本については技術力や経済の話を目にしていた。でも実際に来て驚いたのは、人々の誠実さと法を尊重する姿勢です。それが社会全体を支えていると感じました。

MSP では国際法や国際関係を学び、特に薬物取引や武器の密輸、野生動物の違法取引といった課題が、いかに国際協力を通じて解決されるべきかを知りました。

その学びは、母国に戻った後すぐに実を結び、日本政府から供与された巡視船の船長として任務に就き、海上での作戦で 480 キロの薬物を押収。さらに武器密輸の摘発や野生動物取引の阻止にも成功しました。

MSP で学んだ国際法の知識や理論を、実際の現場で活かすことができました。学んだことを海で実践できたのは大きな財産です。

法の支配に基づく秩序ある海を守るために今後はより多様な国々からの参加を望みます。インド太平洋地域の国々の参加が広まれば、協力関係はさらに強固になるはずです。



スリランカ海上保安庁 Eriyawa W Mudiyanse Prasanna Maduranga Bandara
エリヤワ・ダブリュー・ムディヤンセラガ・バルサンナ・マドゥランガ・バンダラ MSP 8期生 / 2023年修了

「国際協力の現場で生きるMSPの学び」

MSP を通じて学んだ「国際関係の理解」と「英語での発信力」は、現在の仕事に直結しています。

MSP では海上安全だけでなく、国際関係について学びました。それが今、他国の機関と協力計画を立てる上で役立っています。また、授業やプレゼンテーションを通じて英語力や発信力も磨かれました。

広島では毎日自転車に乗ることが楽しく、幸せな時間でした。東京では多様な文化に触れながら充実した日々を送りました。東京は刺激が多く、広島は穏やか。どちらも忘れられない時間です。

帰国後は HACGAM※4 など国際会議に参加し、積極的に発言するようになりました。日本の海上保安官の「規律と勤勉さ」は特に学ぶべき点。インドネシアでも取り入れたいです。



インドネシア沿岸警備隊 (国際協力分析官) Vida Gessy Zerlina
ヴィダ・ジェシー・ツェルリーナ MSP 8期生 / 2023年修了

※4 HACGAM: Head of Asian Coast Guard Agencies Meeting (アジア海上保安機関長官級会合) 海上保安行政に関する地域的な連携強化を図るため、マラッカ・シンガポール海峡をはじめ、世界的にも最も重要な海上交通を抱えるアジア地域の海上保安機関の長が一堂に会する多国間の枠組みです。

MSP修了生海上保安官のキャリア

安藤 美緒

ANDO Mio

MSP6期生

海上保安庁 総務部
危機管理官付 危機管理対策官

約10年の海上保安実務を経てMSPに参加したことで、同期との強い繋がりだけでなく、学術的な視点で安全保障をはじめとする様々な事象にアプローチする方法を知ることができました。

修了後は巡視船、警備課・広報室を経て現職に就いているところ、日本を取り巻く環境も日々刻々と変わる中、MSPの同期に南シナ海の状況をタイムリーに教えてもらったり、疑問があれば関連する文献にあたるなど、より広い視点で海上保安業務にあたれるようになったことは大きな財産です。これを今後も様々な業務に活かしていきたいと思います。

高城 陽平

TAKI Yohei

MSP6期生

海上保安庁 総務部 政務課
政策評価広報室 専門官

20代後半、海上保安庁の業務が国際的な広がりを肌で感じ、「国際分野の知見を得たい」と考えつつも悩んでいたところ、とある先輩から背中を押していただいたこともあり志願しました。他国と対峙する業務に従事することのある警備部門や巡視船中核ポスト勤務では、国際関係・地政学・安全保障等といったMSPで得た知見が活かしました。また、修了生の繋がりは我々の強みですが、今年実施された日米比三か国合同訓練ではフィリピン側の広報責任者が同期だったため、即座に広報調整が行えた等、育んだ絆の強さを発揮する場面も出てきています！

小野寺 寛晃

ONODERA Hiroaki

MSP1期生

海上保安庁 総務部
国際戦略官 課長補佐

2016年に海上保安政策プログラム(MSP)を修了し、2022年5月下旬から、JICA長期専門家としてフィリピン沿岸警備隊(PCG)に派遣され、日本が供与した巡視船の運用・整備能力向上を中心に、PCGの海上法執行能力向上を支援しました。

PCG内には同期2名を含む多くのMSP修了生が主要ポストで活躍しています。

このネットワークは非常に心強く、多くの場面で助けとなっています。また、PCGには20年以上にわたりJICA長期専門家(海上保安庁職員)が派遣されており、歴代専門家が築き上げてきた信頼関係のおかげで、PCG職員は非常に親しみを持って接してくれます。

PCG幹部職員は、国際会議への参加や海外留学、国内進学により、国際的に通用する高い能力を持つ人材が目立ちます。彼らとの議論や意見交換は、自身の成長にも繋がっています。

(海上保安レポート2025より抜粋)

一番左側が小野寺課長補佐



MSP時代



現在の安藤危機管理対策官と高城専門官



修了生にMSPの事を聞きました！

「満足した」

- ・意見を聞いた1～10期生(56名)の約9割以上がMSP全般について満足していると回答。
- ・能力や知識の習得、人的ネットワーク構築といった観点で、MSP全般に関する肯定的な評価の声。

「深まった」

「寮生活」「講義」

- ・誕生日祝い、クリスマスパーティ等プライベートなイベントもあり交流を深めることが出来た。
- ・食事でも相互の文化交流もあり楽しかった。
- ・個人的なことやキャリアについて悩みを共有したことも関係性が深まった。
- ・グループプレゼンテーション等を通じて多様なバックグラウンドを持つ同期生との交流が深まった。



「身につけた」

「国際理解力」「論理的思考力」

- ・アカデミックな政策立案能力を得ることができた。
- ・安全保障や地政学の知見を得ることができた。
- ・国連海洋法条約(UNCLOS)等海洋法の知識を修得できた。
- ・経験のあるMSP教官、世界中のプロフェッショナルとの交流からの、学びが多かった。

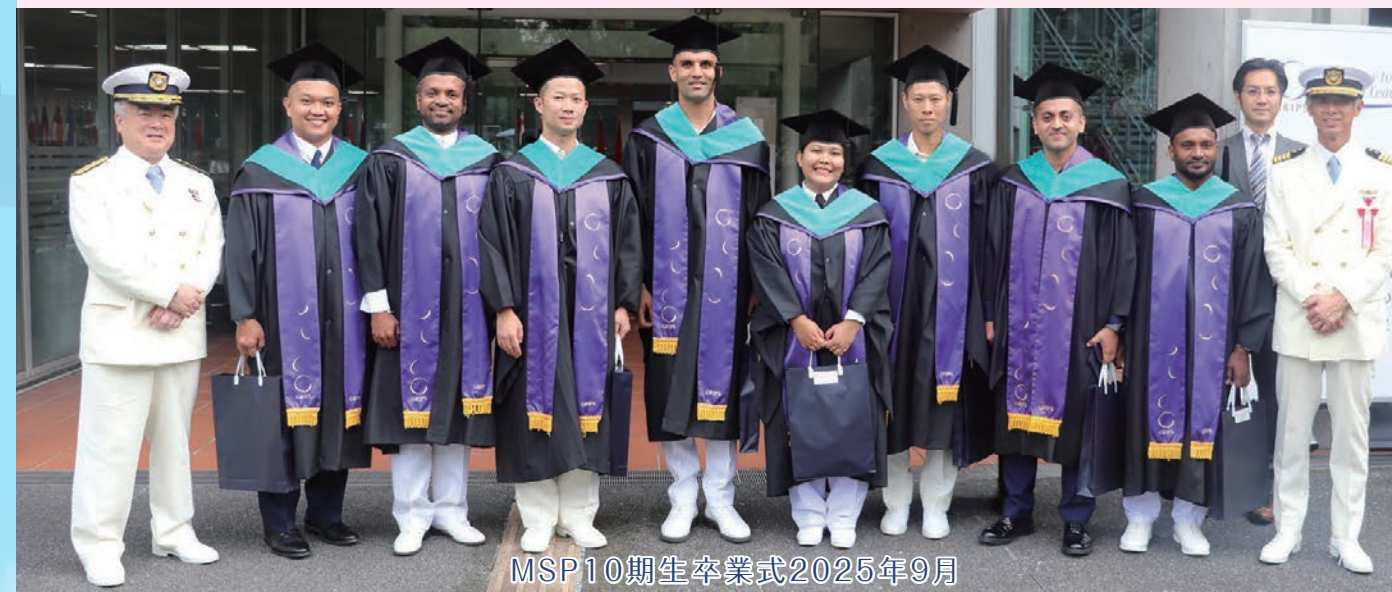
「役立った」

- ・海上の安全やセキュリティに関する共通の理解や国際的な人的ネットワークを構築できた。
- ・MSPの修了生がいて協力案件の実施がスムーズに進んだ。
- ・修了生が他国の沿岸警備隊の上層部に話をすぐに通じてくれた。
- ・同窓会で会った別の期の修了生とも各種情報共有をおこなっている。



NATIONAL GRADUATE INSTITUTE FOR POLICY STUDIES GRADUATION CEREMONY

政策研究大学院大学 学位記授与式



MSP10期生卒業式2025年9月



石破内閣総理大臣表敬



中野国土交通大臣表敬



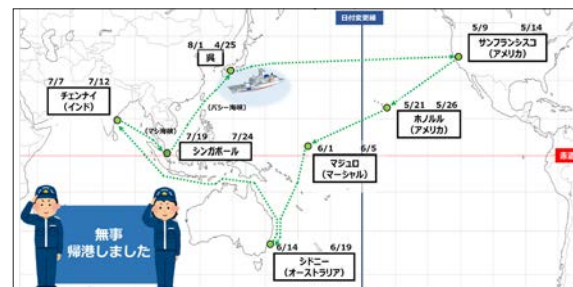
海上保安庁長官表敬



練習船「いつくしま」無事帰港



練習船「いつくしま」が2025年4月25日～8月1日の99日間、総航程約44,500kmの遠洋航海の末、呉（海上保安大学校）に無事帰港しました。実習生たちは幾多の困難を乗り越え、大きく成長しました。



世界海上保安機関長官級会合に関する日伊コーストガードセミナー



2025年8月8日、イタリア・ローマにおいて開催予定の「第4回世界海上保安機関長官級会合」に先立ち、来日したイタリア沿岸警備隊 セルジオ・ディアルド副長官と海上保安庁 瀬口良夫長官が、大阪万博イタリア館において同会合に関する日伊合同セミナーを開催しました。

同セミナーでは、瀬口長官から当庁の業務紹介及び日本で開催された過去3回の会合の振り返りについて発表を行い、その後ディアルド副長官からイタリア沿岸警備隊の業務紹介及び第4回長官級会合への抱負・展望について発表が行われ、会合成功に向けた大きな足掛かりとなりました。



巡視艇「はやぐも」によるウミガメ救助



2025年7月22日、比田勝海上保安署（対馬市上対馬町）は、大量の漁網が漂流しており、ウミガメが引っかかっているとの通報を受け、巡視艇「はやぐも」を発動。

長崎県対馬市上対馬町の舟志（しゅうし）湾沖でウミガメを無事救助し、航行の妨げとなる漁網も回収しました。救助動画を第七管区公式Xに投稿したところ、90万回再生、いいね数2万を超える等、大きな反響がありました。



海の日イベント

2025年7月21日、東京国際クルーズターミナルで海の日記念行事2025を開催しました。海上保安庁のブースでは、制服試着コーナー・VR体験コーナー・機動防除隊員と直接話をしたり、海上保安庁音楽隊によるコンサートもあり大盛況でした。また、東京ドームでは瀬口長官が始球式を行いました。





黒潮大蛇行の終息について ～過去最長の7年9か月継続～

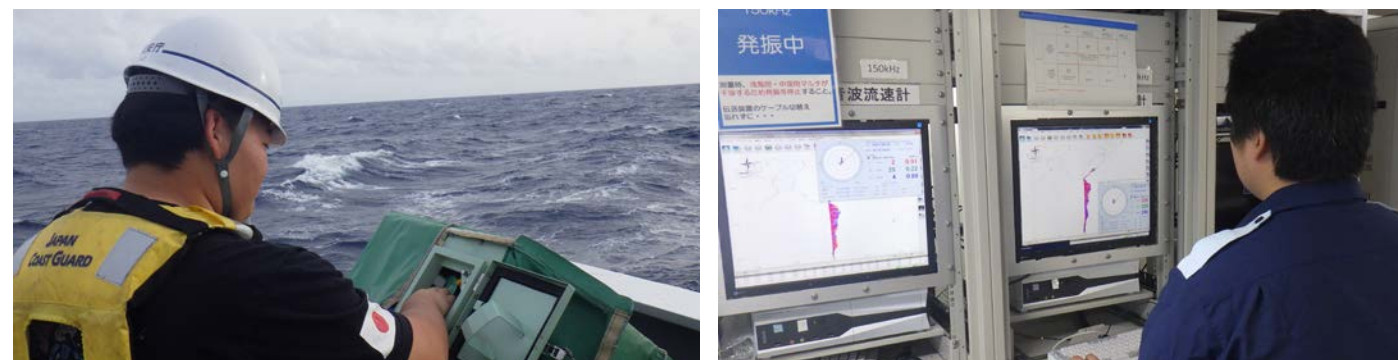
2025年4月、黒潮大蛇行*の状態が見られなくなったことから、気象庁より5月9日に黒潮大蛇行の終息の兆しが見えたことをお知らせしていました。

その後も海上保安庁と気象庁では黒潮の状況を監視しておりましたが、東海沖における黒潮の最南緯度の経過や潮岬沖での黒潮の接岸の状況より、大蛇行していない状態が安定的に持続していることから、黒潮大蛇行が2025年4月に終息したものと判断しました。

この結果、2017年8月から続いた大蛇行の継続期間は、1965年以降で過去最長となる7年9か月となりました。

公式Xに投稿したところ、350万再生、3.9万いいね、1.5万リポスト、など関心の高さをうかがわせる大きな反響がありました。

*:黒潮大蛇行…黒潮が潮岬で離岸した状態で安定し、かつ東海沖で北緯32度より南に位置している状態



日本国内初！日本・米国・フィリピン による合同搜索救助訓練

2025年6月20日、鹿児島湾において、米国沿岸警備隊（USCG）及びフィリピン沿岸警備隊（PCG）と、2024年4月の日米比首脳による共同ビジョンステートメント発表後『初』となる合同搜索救助訓練を実施しました。本訓練を通じて、三か国の海上保安機関間の相互理解と信頼醸成が促進されるとともに、連携・協力関係を強化することができました。



こども霞が関 見学デー2025開催

2025年8月6日・7日の2日間、こども霞が関見学デー2025を開催しました。2日間で2,897人来場頂きました。

海上保安庁のブースでは、海洋環境教室、スタンプコーナー、海の底を覗く3D地図、制服試着コーナー、VR体験コーナー、機動防除隊員との撮影など行いました。海上保安庁音楽隊サマーコンサートも行い、楽しい2日間となりました。



映画「ラスト・ブレス」との タイアップポスター制作

映画「ラスト・ブレス」とのタイアップポスターを作成しました。

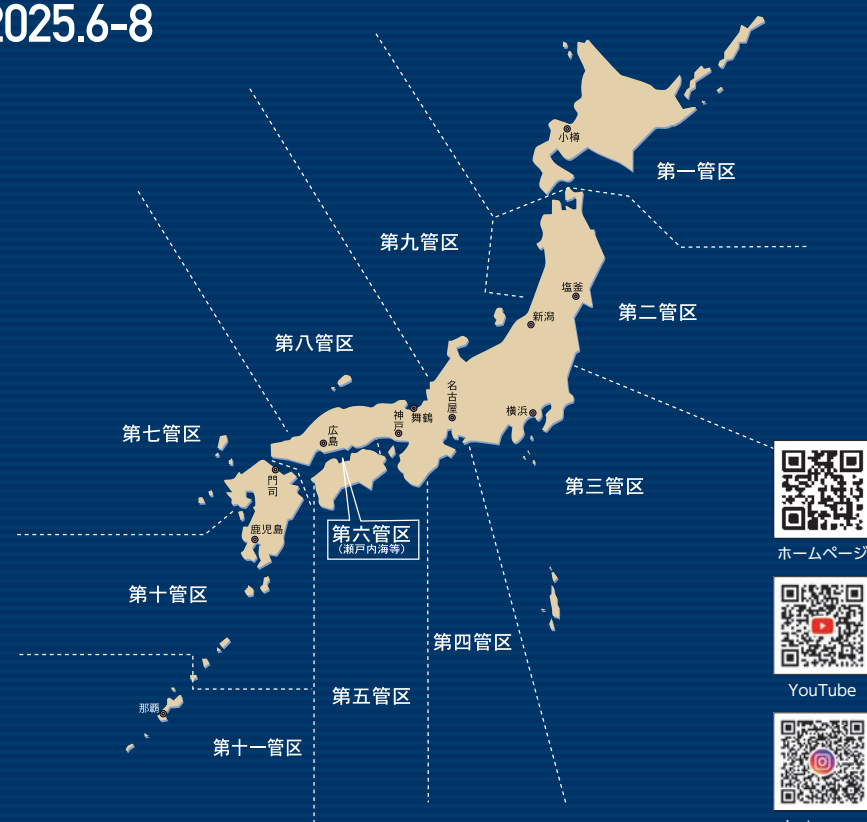
映画では潜水における人命救助の様子が描かれており、海上保安庁の潜水救助と通じる内容であることから、今回のタイアップポスターの作品が実現しました。

タイアップ企画を通して海上保安庁の業務への理解と、海上保安官の募集を広く伝えていきます。



PHOTO DIARY

2025.6-8



ホームページ



YouTube



Instagram

6月 June

1日

第八管区 | 第八管区海上保安本部
海上自衛隊舞鶴教育隊
オープンスクールに出展



9日

第八管区 | 敦賀海上保安部
制圧指導官指名式
～八管区初女性制圧指導官誕生～



20日

第四管区 | 衣浦海上保安署
シーホース三河 (プロバスケット
ボールチーム) 感謝状贈呈式



16日

大学校 |
遠泳訓練
(5.5km・9.2km)



18日

第九管区 | 新潟海上保安部
警察・消防・海保
三機関合同潜水訓練



29日

第三管区 | 茨城海上保安部
社会科見学ツアー



8月 August

2日

第三管区 | 御前崎海上保安署
御前崎みなと夏祭



3日

第一管区 | 釧路海上保安部
巡視船そや
最後の一般公開



3日

第九管区 | 新潟海上保安部
こどもシゴト博2025in新潟



6日

第七管区 | 福岡海上保安部
マリンワールド
海の中道での安全啓発活動



9日

第十管区 | 奄美海上保安部
初! 巡視船あまみ
一般公開!



16日

第二管区 | 福島海上保安部
塩屋埼灯台
エメラルドタイム鑑賞



23日

大学校 |
オープンキャンパス



30日

第五管区 | 高知海上保安部
海のもしも!?
そなえて安心ツアー



31日

第六管区 | 第六管区海上保安本部
測量船「光洋」一般公開



13日

学校 | 海上保安学校
令和7年度行軍訓練



18日

第一管区 | 室蘭海上保安部
チキウ岬灯台施設見学



7月 July

2日

第十一管区 | 中城海上保安部
海水浴シーズンに向けた
安全啓発活動



6日

学校 |
五森祭 (学園祭)



12日

第四管区 | 第四管区海上保安本部
マレーシア派遣から
みずほ入港出迎え





圧巻の観閲式!

海上保安庁

海を愛し 海を守る



ギャラクシー賞入賞作品



空撮映像必見



海上保安庁業務紹介
海を守ります!



人命! 亀命! 犬命! 鯨命!

